

---

# IS～インフィニット・ストラatos～“最強”の機関‘IS風紀委員会’

トロイケンスケ

---

## 注意事項

IJのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IJS～インフィニット・ストラatos～“最強”の機関、IJS風紀委員会、

### 【Zコード】

Z9230W

### 【作者名】

トロイケンスケ

### 【あらすじ】

「我々IJS風紀委員会が業務を執行する」

そんな決め台詞とともに現れる、最強の国際機関。

委員長と副委員長は転生者兼大会社の社長兼宇宙大国の国王兼国家代表。

そんな常識を踏みにじる彼らが、IJS学園に入学！？

他の転生者もいる中、彼らはどうするのか！？

この作品は、作者の妄想、主人公最高、ご都合主義、等が含まれま

४०

## 第一話

始まりはいつも突然に?? (前書き)

はじめましてトロイです。

## 第一話 始まりはいつも突然に??

――――――?? (主人公) 視点――――

どうも、こんなにちは。  
じんりゅうじせんや  
神龍侍閃夜です。

今回僕はインフィニット・ストラトスの世界に行くことになります  
た。

その時の事をビデオ。

――――十数分後――――

「そんな訳でスマセンでした――――」

あつとーもつと後だ。

――――さりに数分前――――

「スマセンでした――――」

えつ?白い服着た羽生てる女人(かなり美人)が土下座をしていた。

「なあ、零夜、なんでこんな事になつてんの??」

日本人の最終奥義

横にいた親友の神火鳥零夜に聞いてみる。

「…………さあ？」

この親友の、神火鳥零夜は声が小さい。  
まあ、そんなにでもないけどね。  
でも、良い事は言うし、真剣な時や切れた時は大声を出したりする。  
けつこう、いい奴だ。

「それは私たちのせいなんですよ」

「ん？」この人の事忘れてた。

「私は神です。人の人生を管理しています」

へへへへへ。

「部下たちが書類整理をしていた時、コーヒーをいつせいにこぼしてしまい、その人たちが乗った飛行機がハイジャックされて、死ぬ予定になってしまったのです」

へへへへ、ふむふむ。

「そこにたまたま乗っていた貴方達が犯人に飛び掛ったおかげで、死んだのはその後撃たれた貴方達以外にはいません」

「そうか、よかつた。

「そんな訳でスイマセンでした！――！」

別に良いけど・・・・・

「そこで、あなたたちを『転生させる』ことになりました。願い事は助けた人の数です」

い い い い  
ん て て て  
！ ！ ！

てんせい！？！？！？！？！？

見ろよ、表情の変化が少ない零夜までもが目を見開いてるぜ。

「そうです、願い事はたくさん人を助けたので、230個です」

ふつ！！そんなに！！

「まあ異例中の異例ですね」

そういえばこの前、設定だけ考えてそのままの物語があつたな。

「俺の家の俺の部屋にある机の右側、上から3番目の一一番上にあるノート取つて」

「はい、……………ですか？」

「そりゃ、やん

いや一覚えておいてよかつた。

「では後229個です」

じゃあ、後は。

「この設定どうりにして。ああ、神龍侍は俺、神火鳥はこいつな。それと、その能力を完全に制御できるようにして」

「はい、分かりました。でもこれって、この世界の一番強い人の50倍強いですし、一番頭良い人の40倍ぐらい頭良いんですけど、いいんですか？」

「うーーん、どうしよ？？」

「いいかな？零夜」

困ったときは零夜に相談すれば何とかなる。気がする。

「・・・良いんじゃない？」

「そうか。ならいいや。」

「良じつても」

「では、いつてらっしゃいませ」

「「はーー」」

閃夜・零夜が言った後

「 もう少しおまけしますか ・・・ 」

次回は

設定です！たぶん！！

ENJOY期待。

設定・・・・・では無い。第一話 宇宙のHIMI、天災に余り。前編（前書き）

すこません。設定とか言って置きながら、第一話です。

どうね。

――――神龍侍視点――――

「 H I M A D A 」

この発言の主はこの俺、神龍侍 閃夜だ。

まあ、自分で考えた設定だから、分かつてはいたけど、スゴイね。

一度見たら忘れようと想わない限り覚えてるし。

ISの基礎理論とかもう知ってるし。

本気で走ると、ソニックブーム出さず(+)、音速超えるし(どうやつてんだか、分からぬけど)。

あ！そりそり。俺の居る所だけども、宇宙に在る月を拠点とした、

超大国。

宇宙国家“アヴァロン”

なんだよね。

このアヴァロンは宇宙に在ることもかかわらず、地球にもかなりの影響力を持つていて、さらに国営の会社“アヴァロンホーム”は色々な製品を作つており、キャッシュペーは“歯ブラシからミサイルま

で、365日24時間懇切丁寧安心安全の商品をアヴァロンホーム”である。

このキャッシュコピーから分かるように様々な製品を作つており、国内シニアは全てが90%超、さらに地球でも75%超というなんだか気持ち悪いぐらいの売り上げを上げており、そのせいもあってかアヴァロンは歳入が歳出を大きく上回り、国の金庫はすごい事につてる。

ちなみに“アヴァロン”の国王は同時に“アヴァロンホーム”的社長になつてゐる。

そして今の国王は俺の父親、俺一人つ子、もつ分かりきつてると思つけど次の国王&社長は俺だ。

ちなみに神火鳥は宰相の家に生まれており、俺の幼馴染だ。

“アヴァロン”的宰相は“アヴァロンホーム”的副社長だ、神火鳥も一人つ子、もつ分かるよね？

さらに俺らいま10歳だよ。

設定のおかげでかなり気持ち悪いけど。

‘神童’とか‘鬼才’とか‘もはや神’とか‘いや悪魔だろ’とか‘つてオイ！－悪魔はないだろ！－！－！－！－！－！－！－！－！

まあ何に対しても完璧にできるとか、すげいよね。まあ自分のことだけど。

でも俺は武道が得意（得意とかそう言つレベルじゃないけどb役者）だし、神火鳥は機会に強い（何度も言つようだが、‘強い’とかそう言つレベルじゃないb役者）けどね。

そんな訳で、やりたい事はかなりやつたからな、ヒマなんですよ。

IHSの兵器はひそかに建造してゐるし、俺の部隊“ IHS風紀委員会”はすぐ作れるように手配してゐるし、あ、そぞろつゝ、“ IHS風紀委員会”は女ばかりだと思うでしょー違つんだなーこれが。

なんと!!俺と神火鳥が頑張つて作った、全身<sup>フル・スキン</sup>装甲のIHSによく似てるけどIHSを使い方によつては圧倒する超兵器“モビルスーツ”つまり“MS”だああああー…………

えつ?なんか聞いたこと有るけど?「汎ダラダラ」が、やあなんだつたつけ「目を逸らす」。

・・・・・・・・スイマセン、ちよつとパクリましたハイ、名前とか一緒です。

で、でもですね、大きさはIHSと同じですよ、ハイ、スイマセン、言い訳しません、デザインとかめんどくさかったんです。

少しはIHSの機能使つてるんですよ、絶対防御とか生体機能の補助とか。

ま、まあ、そんな訳で能力が高い男の人も結構いる、といつよつと割が男だ。

でも手配するとき「女性が戦闘要員としているんですか?」とか言われたよ、まつ、すぐに分かるさ。

さて、どうしようかなー。

もう篠ノ之<sup>しのの</sup>束<sup>たばね</sup>に会いに行<sup>こう</sup>かな。

そうしようか。

次回

天災と鬼才が出会つ?

乞<sup>う</sup>ひ<sup>う</sup>期待。

設定・・・・・では無く。第一話 宇宙のH子、天災に会ひ。前編（後書き）

感想待つてます。

——— 神龍侍日線 ———

「ぐつぐつやん」

「・・・・・ 静かに、  
閃夜」

ごめんなさいという意味で手を振る俺。

何をやっているかというと、アヴァロンの城に潜入している

あれですよ、自分の能力の確認と後はドッキリだね、うん、あれだよ若氣の至り。

まあ、俺の場合は地球に降りるためには、父さんの許可が必要なんだよな、めんどくさいんだよな。まあ、許可なんて有って無きが如し、お父さんなんか「ん、地球行くのか、行つてらっしゃい」だからね。

危険なんだよな、ほら誘拐とかさ。

お父さんの言い分としては、

「ここに勝てる奴此処にいないし、護衛とかお荷物だら」

正論だけどね、もつ少し心配してくれてもいいじゃん  
いや、お前俺より強いし、中学卒業したら継げよ

いいのか？それでいいのか！？国王……？？あんた“仁君”じゃないの！？？

「それでもだ、お前のほうが上だ、プライドなんてどぶに捨てるぐらーの器量はあるや。てゆうか、国王めんどく、お前に押し付ければいいだろ」

ちよつと……オイ……あんた何言つてんだ……まずいだろ……！

国王……！

「……馬鹿野郎、「パアアン……！」閃夜君が継いでも、お前が補佐すんだよ」

おおー零夜のお父さん……となればあの音はある伝説の

「おい……！……陣夜……！書類アタックは酷いぞ……！」

説明しよう！書類アタックとは文字符号！書類による攻撃だ……しかしこの真骨頂はその書類の量により威力が変わることだ……つまりサボればサボるほど強くなる攻撃！！！この起源は仕事をサボる国王に獻きた宰相が戒めるために創めてたとしてある。

「……聖夜、馬鹿なこと言つお前が悪い

「ん……？？なんで会話になつてんの……？」

そう言つと回想だと思っていた声が響く。

「バレバレだ馬鹿、地球に行くんだろ？行つて来い」

「もう威儀とかないな俺……おつ！落ち込んだ。

「・・・・・自業自得だ馬鹿。零夜、居るんだわ」  
何うかうひのうねり。

卷之六

— ● ● ● ● ● うん

「ちゃんと補佐しろよ！ 次期宰相！！」

「せこー！」

うんーうんーいいね～これぞ親子だよ。

「閃夜～、俺らもやる？」

「やめて！恥ずかしい！あれの一番煎じとか、かつこ悪い！…」

そう思つよね！あの感動の場面を真似するとか。

「だよね、せっぱうじゅあ俺り流にいくか。」

ん？ なんだ？

「遡河にやれー。やして無駄なー」とはすんなー。んでもうひちゅんと帰

「て来し！！ できれば彼女連れて来し！！ 以上！！！」  
ふつ、ならば俺も合わせるか。

地球へ

「来ました地球！！」

ん～～～テンショ～～～上ッテガる～～。

「・・・・・サツサと行こう」

ん？ああ、分かつたよ、りよーかい、零夜。

「じゃあ行こうか、零夜」

天災と未来の最強の所に・・・・・ね。

次回

ようやく邂逅する一人。  
どんな会話に？？

前振り長すぎ！と作者も思つてゐる……！  
そんな訳で次回終盤に入ります！

乞うご期待。

## 第三話 宇宙の王子、天災に会へ。中編（後書き）

読んでくださっている方、ホントにありがとうございますーー！

## 第四話 宇宙の王子、天災に会つ。後編（前書き）

やつと、原作キャラ登場！――！

初めに会つのは意外なあの人！？

ど、ど、ど――！

――――――神龍侍田線――――――

あのを・・・・・

何この状況・・・・・

(何が起こうてんだよ！知つてゐけどーーby 作者)

書けよ！――――

ん？何が？？

何が起こうてんだよって言つと、男の子と女の子が複数の男の子で囲まれてリンクチされている。

しかもあれは、“織村一夏”と“篠ノ之助”だな。

あ～、あこつら今、小学3年か。

ん？ そりだよ、あいつは年下。

まあ、学園では同じ学年に（無理やり）入るから問題ない。

・・・・・よし。

盗み聞きをしよう。

えへと・・・・・

囮んでいる男の子『お前ら』の頃生意気なんだよ……』

囮んでいる一同『やうだー、そりだー……』

織斑一夏『何がだよ……』

囮している男の子『お前ら、去年3人倒したからって、調子乗つて  
んじやねーよ……』

囮している一同『調子に乗るなー……』

織斑一夏『どじが調子乗つてるんだよー……』

囮んでいる男の子『篠ノ之とかだよ！！！』

# 織斑一夏『何だよ！！！！』

囮んでいる男の子『オシャレしてんだろ！？男女の癖に！－！－！』

# 織斑一夏『テメエ！！！』

掴み挂かる縞斑

困んでいる一同「それが調子乗つてゐると言つんだよ……！」  
突き飛ばされる織斑。

篠人之纂 · 一夏！！

困んでいる——同様——へつ——弱え——

篠人之篠・貴様ら!!!!『

・・・・・ そう言えば、この辺りの監視カメラがあそこを撮つて  
るな。

篠ノ之束か。

囲んでいる一回『けつ！！』

突き飛ばされる。

織斑一夏『第！！！』

今度は、織斑が篠ノ之内に駆け寄る。

囁んでこむ一回『やつぱつ、こつらおもててるんだーーー』

・・・・・『の気配は、織斑千冬か。

・・・・・むつそろそろ行くか。

織斑一夏『お・・前・・じあああああーーーー』

俺は織斑一夏の肩に手を掛ける。

「はいはい、落ち着け

そのまま引っ張る。

「えつ? ? ? ?

よろける織斑一夏、それを軽く支える。

「さへとー餓鬼共! ! !

俺は男の子たちを見回す。

「調子乗ってんのはお前らだ・・・・・

その後睨み付け、声のトーンを下げ、さらに全力の100分の1の殺氣をぶつける。

ਗੁਰੂ ਨਾਨਕ ਦੇਵ ਮਿਸ਼ਨ, ਮਾਲਿਆਲਮ

「あゝ、その物影に居る、織斑一夏のお姉さん、それとも織斑千冬、それとも・・・・・」

此処で言葉を切る俺、そしてまた言葉を発する。

「篠ノ之束の親友、それとも“ISのテストパイロット”……どれかな？」

決まつたな・・・・・

「…………氣味悪いよ閃夜」

「なんでやねん！？！？」

ああ、関西弁になつてもうた。

いやあなしとね!!

じゃない！！ああ、戻った。

— — —

おい い い い い い い い ！ ！ ！

必死に作つた空気が台無しじやねえか！！

## 「零夜！！」

非難100パーセントな声をぶつける。

「…………で、出て来て下さりよ“織斑千冬”さん

無視ですか、

無視ですね、

無視なんですね？

虫ですか？

いいえ違います、

無視です、

無視なんですか、

無視という非道な手段です、

無視ですか？

無視ですよ。

「何時から気がついていた？」

質問には答える。

「生まれたときから…………ではなく、（あながち嘘でもない）初めからですよ、そこ）の天災を含めて…………ね」

俺は監視カメラを指差し、答える。

「どうでもいいから！遊びに来てよお兄さん……さつきカツ」よかつたよ……。」

おお、一夏君！君は分かってくれるんだね！

「……………どうすんの？？」

いや、招待されたら答へは一つ。

「行きませよ！」

次回

今度こそ天災さんと邂逅。  
これ終わったら、設定書いひ。

んひ期待。

## 第四話 宇宙の王子、天災に会つ。後編（後書き）

束サンと会えないなー。

原因は、ひとえに俺の文章力の低さ。

読んでくださつている方スマセン。

第五話 大鬼才、世界を開く・・・・・・前のお話。（前書き）

これが終わると、原作へ飛びます。

第五話 大鬼才、世界を開く・・・・前のお話。

――――神龍侍田線――――

ダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダ

「くつ、おい！一夏！無事か！？」

ドダダダダダドダドダドダドガガガガガガガガガ

「てつ、敵に囲まれた！！もう無理だ！」

ズガガががガガガガガガガガガドドドドガガガガガガ

「い、一夏！？」

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド

「…………駄目だ、千冬さん。今出たら、悪いほうにしかいかない」

「一夏ア！！」

・・・・・  
ダッダッダッダッダッダッダッ  
ガーン！・・・・・・・・・・・・・

「…さひや…」

ダツ  
ガシ！ググググググググ

「アンタが行つてどうなる——東さん——。」

ジタバタジタバタジタバタジタバタジタバタジタバタジタバタ

「離して……せん君……」

ジタバタジタバタ

ギュッ・・・・・・・・・・・・

「頼むよ、あんたまで失いたくはない」

「…………ちつ、数が多い。やり過ぎだよ東さん」

ギュ！タツタツタツタツタツ

「ホントだよーまつたぐーー！」

「オイ！ 束……ついでやましい…………じゃなくて……早く敵を倒せ…………」

「ドォン――ドォン――ドォン――ドォン――ドォン――ドォン――

「クソガアアアアアアアメンドクセエエンダヨオオオオオオオオ  
アアン――――――――――――

ガシャシャシャシャシャアン――・・・カチン

ドオオオオオドオオオオオガアアアアアアガアアアアアアア  
YOU――WIN――

「――――やつたああああああ」――

ん?何やつてたか?

そりゃあ束さん&神火鳥、特製の新感覚体験型ガングームだけ??

本体の中に入つて、生身で体験できるけど??

感触とか反動とか同じだけ??

何か??

何が起きていたか簡単に説明すると・・・・・・

1、一夏が囮まれる

2、千冬さんが突撃しそうになる

3、神火鳥が止める

4、筈、行つきます

5、返り討ち

6、ウサギが暴走しかける

7、俺が抱き止める

8、ギヤー、狙われたー

9、抱きかかえたまま、逃げる。

10、めんどくせこので、ミサイル乱射！！

11、やつたー

こんな感じ。

「の前來た時、かよつとあつて、衆れどに眞に入られた。

そんなこゝなで、色々やつてたり、衆れどに十ヶ所を落としきや  
つた

いやー。

さひつけた。

【まあ、俺がやひせたんだがな「作者」】

「そう言つわけで、俺と神火鳥は明日帰る」

どんな訳だよー、てな。

「「「「ええええええええええええええええ」」」」

うるせーなー。

まあでも帰らないといけないんだ、色々と用意しないといけないしな。

「…………まあ、一度と会えないわけじゃないんだし」

「やうだ、また会えるやー。」

「おおむね二冊たゞでござる」

一夏、そんなに悲しそうな顔すんなよ、なんだか、帰りたくない

もつと笑え。

「また会えますよね？」

だからそんな顔すんなや、篠、また会えぬつひ。  
絶対な。

「絶対だぞ」

了——解、千冬さん。

次は、意外なところ出でんと思つよ。

「絶一対だからねーせん君ー」

「ああーーじや あなーー。」

「バイバイ

そして・・・・・・世界は震撼する。

生み出された。IS。

起る白騎士事件。

最強の兵器。

今までを完全に破壊する兵器。

始まる女尊男卑。

そして世界はまたも震撼する。

その常識が崩れる」と。

最強を超える者がある」と。

それは。

アヴァロンの王子が率いる最強の部隊。

何者も逆らえぬ部隊。

ISを取り締まる部隊。

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

その奴は・・・・・

さあーー世界はどう動くーーー！

次回

彼らが、IS学園に！

ついで期待ーーー！

第五話 大鬼才、世界を開く・・・・・・前のお話。（後書き）

スイマセン手抜きです。

## 設定（前書き）

遅くなりました設定です。

原作に入る前に書こうと思っていたので、今書きます。

それでほびつね。

原作開始時プロフィール

氏名：神龍侍 閃夜

年齢：17歳

職業：転生者・主人公・アヴァロン国王・アヴァロンホーム社長・  
アヴァロン国家代表・IS学園1年1組

容姿・髪の毛と瞳の色は黒、髪は肩にかかるぐらいで少し撥ねてい  
る。

性格：基本的な行動原理は面白そうか、そうでないか。

別段アヴァロンの事で威張つたりはしない。

理不尽な事などはあまり好きじゃない。

人を馬鹿にしたり、侮辱されると怒る。

神火鳥のことを親友だと思っており、信頼している。

備考：神により転生させられた転生者。

転生前から身体能力は高いほうである。

怒ると基本的に手が付けられなくなる。

父親の事を馬鹿親父等と読んでいるが、かなり信頼し、尊敬している。

専用機：モビルスーシーとインフィニット・ストラトスを所持している。

専用IS・クライム・セイヴォー

動力炉：時空間連結炉・超小型レーザー核融合炉 × 2

メインシステム：カウントレス・ノウレッジ

近距離武装：パニッシュメント・ブレイド

備考：日本刀の形をしている。

峰の部分がスライドしてエネルギーが放出される。

剣の刀身はエネルギーで補助してあるので、何でも切れる。

相手に当たると、絶対防御が発動して、シールドエネルギーがどんどん削れる。

ブライトネス・ケイオス

備考：日本刀の形をしている。

紅椿の一本の刀の能力を合わせた剣。

一本ある。

エネルギーを最大放出すると、巨大な剣の

形になる。

遠距離武器・<sup>異端者</sup>ヘレティック・ブレット

備考：ビームライフル。

<sup>偏向射撃</sup>フレキシブルが可能。

収束形態と拡散形態、連射形態と単発形態

の4種類がある。

連射形態の収束形態だと、一秒間に5発。  
連射形態の拡散形態だと、一秒間に300発。

単発形態の収束形態だと、一秒間に1発。  
単発形態の拡散形態だと、一秒間に60発。  
単発形態は収束形態の1・4倍の威力。

2本ある。

<sup>滅び</sup>の咆哮  
フォール・ロア

備考：超圧縮反物質砲

次元連結炉により取り出した反物質を圧縮して打ち出す。

当たつた物質を対消滅させる、最終兵器。  
軽々しくは使えない、まさに“滅びの咆哮”

”

その他：イコライザ

<sup>後付武装</sup>

特殊武装・<sup>绝望</sup>デイスペアー・メテオ

備考：6枚の翼の形をしている。

その羽一枚一枚からビームが発射される。  
フレキシブルが可能。

泣きたくなる位に鬼畜な攻撃。

一つの翼から、一秒間に約1000発ぐら  
い。

一秒間に、計約6000発撃てる。

1発でシールドエネルギーが10分の1削

れる。

ワンオフ・アビリティー・ミソロジイ・セイヴ・アビリティー  
能力  
神話  
救世主

備考：すべての性能と武器の威力が最大50倍になる。  
相手の特殊武装と单一能力の効果を一切受け付け  
なくなる。

枚の羽。

外見：スマートな外見、目立つのは後ろに付いている6

そして、羽から出る余剰エネルギーの粒子。  
バイザーを出す事ができる。

黒と白でカラーーリングされている。

黒と白の割合は4対1

た機体。

備考：超広域全距離単機完全制圧を「コンセプト」に作られ

他の追従を許さぬ、まさに無敵の機体。  
その代わりに機体の操縦は難しい。

考が必要。

機体の全性能を出すためには、最低8個の分裂思考が必要。

メインコンピューターのカウントレス・ノウレッジは基本的に3秒あれば

相手コンピューターの完全制圧が可能。

さらに管理人格が存在し会話やある程度の操縦ができる。

できる。

管理人格の名前は女性で“ユリエス”。

管理人格は実体化ができる。

専用MS・?・?・?  
現在公開不能

氏名：神火鳥零夜  
しんかどり れいや

年齢：17歳

職業：準主人公・転生者・アヴァロン宰相・アヴァロンホーム副社長・アヴァロン国家副代表・IS学園1年1組

容姿：髪と目が黒、髪の毛は肩に掛かるぐらい、目は少し細め。

性格：基本的に温和、もしくは興味がないとも言える。

怒ると親友の神龍侍にしか手が出せない。

怒る原因は基本的に友達を侮辱される事。

見える範囲は助けて上げたくなる事もある。

神龍侍の事を唯一無二の親友だと思っている。

備考：神により転生させられた転生者。

転生前から身体能力は高いほう。

父親のすべてを尊敬している。

基本的に声は小さいが、聞こえないわけではない。

専用機：モビルスース<sup>I</sup>とインフィニット<sup>S</sup>・ストラトスを所持している。

専用 IIS・<sup>破壊</sup>ディストラクション・<sup>黙示録</sup>アポカリプス

動力炉・時空間連結炉・超小型レーザー核融合炉 × 2

メインシステム・カウントレス・ノウレッジ

近距離武装・ミッドナイト・スワロウ

備考・日本刀の形をしている。

紅椿の一本の刀の能力を合わせた剣。

一本ある。

当たると絶対防護が必ず発動し、エネルギーがどんどん削れる。

遠距離武装・マッドネス・ジヨイ

備考・遠距離用ビームライフル。

まともに当たるとエネルギーが半分ほど削れる。

一本ある。

基本的に脇に抱えて撃つ。

オブリヴィオン・サタン

<sup>忘却</sup><sub>魔王</sub>

備考・中距離用ビームライフル。

一本ある。

常に拡散状態であり、一秒間に400発

フォール・ロアード

備考・クラーム・セイヴァーのものと同じ。

その他・イコライザ

<sup>後付</sup>武装

特殊武装・クリムゾン・コメット  
真紅の彗星

備考・六枚の翼の形をしている。

一枚の羽から3発のエネルギーを放出する。

1発撃つのに1、8782秒かかる。

つまり1、8782秒で18発撃てることになる。  
1発で約100体のE.Sのシールドエネルギーが

0になる。

泣きたくなる位鬼畜な武装。

ワンオフ・アビリティー・ミソロジイ・セイヴォー  
単一能カ  
神話の救世主

備考・クライム・セイヴォーのものと同じ。

外見・クライム・セイヴォーと色が逆転しただけの外見。  
バイザーを出す事ができる。

備考・コンセプトも機体性能もクライム・セイヴォーと同じ。

クライム・セイヴォーの兄弟機。

カウントレス・ノウレッジの管理人格の名前は“

カリウス”

クライム・セイヴォーの事を“お姉ちゃん”と呼ぶ  
んでいる。

クライム・セイヴォーには“カリちゃん”と呼ば  
れている。

クライムセイヴァーと同じ女性型、実体化が可能。

## 設定（後書き）

「どうでしょ、つか？質問あれば、感想下さい。」

第六話 クラスマイトは全員女じゃ無かった。（前書き）

原作へGOです。

## 第六話 クラスマメイトは全員女じや無かつた。

-----織斑一夏視点-----

「全員揃つてますねー。それじゃあSHRはじめますよー」

黒板の前でこつこつと微笑む女性副担任こと山田真耶先生（やまだまや）  
（さつき）自己紹介していた。

身長はやや低めで、生徒のそれとほとんど変わらない。しかも服は  
サイズが合っていないのかだぼつとしていて、ますます本人が小さ  
く見える。また、かけている黒縁眼鏡もやや大きめなのか、若干ず  
れている。

なんというか、『子供が無理して大人の服を着ました』的な不自然  
さ……というより背伸び感がするんだが、そう思うのは俺だけな  
んだろうか。

そういうえば、子供だったはずなのに大人よりカッコ良かつた人が居たなー。

会いにこなくて千冬ねえが怒つてたつけな。

いつか会えるって言つてたつけな、全然来なかつたな。本当に何時か会えるかなー、分かんないな。

「それでは皆さん、一年間よろしくお願ひしますね」  
「…………」

けれど教室の中は変な緊張感に包まれていて、誰からも反応がない。

「じゃ、じゃあ自己紹介をお願いします。えっと、出席番号順で」「じゃ、じゃあ自己紹介をお願いします。えっと、出席番号順で」  
でも、結構遠い所から来ているらしいから、また会えるかなー、分かんないなー。

いかんいかん、俺が聞いてないせいか、ちょっとうるたえる副担任がかわいそうなので、せめて俺だけは返事しておこうと思わなくも無いのだけど、そんな余裕はない。

いや、考え方している時点で余裕あるのか?知らないよ。

まあ皆さん分かつてているんだろ?。

それは!ーなぜか!ー??

俺以外のクラスメイトが全員女だからだ

あ！でも遅れている奴がいるらしい、担任と同じく。  
担任は女らしい、来てないけど。

しかも、真ん中＆最前列だなんて、自然に見ても誰も気が付かない  
から否が応でも注目を浴びるじゃないか。  
まあでも、皆見てれば別に大丈夫だという、『赤信号』、皆でわたれ  
ば、怖くない』なんて思うんだろうな。

全員の視線が集まっていると思ったら一人だけ見てない、いや、見  
たら顔を背けたと言つた方がいいかな。

幼馴染の篠ノ之箒だ。

俺つて嫌われてるんじゃないか？箒に。

「……くん。織斑一夏くんつ」

「はい！？」

いきなり大声で名前を呼ばれて思わず声が疑問系になつてしまつた。  
案の定、くすくすと笑い声が聞こえてきて、俺はますます落ち着かない  
気分にならなくなくもない。

しかし何なんだろうな、試験会場を間違えて工Sを動かしてしまい、  
此処に来た。

でも世界で一番目ではないらしい、もつ一人居るらしいんだが、来て  
ないのか来ないのか分かんないね。

そう考えていると、山田先生がいきなり謝ってきた。

「いや、あのそんなんに謝らなくて……つていうが自己紹介しますから、先生落ち着いて下さい」

「ほ、本当？本当ですか？本当ですね？や、約束ですよ。絶対ですよー！」

がばっと顔を上げ、俺の手を取つて熱心に詰め寄る山田先生。

……じゃあやるか、そう思い後ろを振り向くと今まで現実逃避していた分少しだじろぐ。

しかし、やらなきやな、ここで溝を作りたくない。

「えー…………えっと、織斑一夏です。よろしく

ドオオオオオオオオオオン…………

「オイ…………手をあげろお…………IISは使つなあ…………外に居る担任も手を出すな…………この男がどうなつても良いのかああ…………ええ…………」

銃を持つた男が3人乱入、つてえ！？え！？え！？え！？

「くつ……」

あ！千冬姉え！？つていうか、えつつ！？俺が人質？

「千冬姉！？！俺に構わず

「うるせえ！？餓鬼！？！大人しくしていろ…………」

「おこおこ、五月蠅いのはめえりだよ、ハエ」

「…………ハエは大人しく地べたを這つてゐ

「いや、ハエだからこそ地べたを這わないだろ」

何かが廊下に居るみたいだ。

「誰だあ……」

「「唯の無敵だ」」

そう聞こえるなり、一つの影が飛び込んで来た。

「動くなと

「

男が銃を構えて

「ハイ、無駄」

「

「・・・・・無駄だね」

ガキン！！

銃を一人が奪い取り後ろに下がる。

「つな！」

「よつ、とー」

もう一人が男を殴る、スッゴイ早く。

バキ！..ドゴオオオオン！..！..

あれ？音がすごい事に。

「アニキ！」

あつまだ他の

ガキツ――ドドオオオン――――――

全員がやられた、スッゲエ。

「大丈夫か一夏」

えつ？

「・・・怪我はない?」

なんで

「ふ、俺を忘れたのか？」一夏

「…………そんな事ないと思ひつけどね」

九、九十九

「神龍侍、神火鳥、もうそろそろ戻れ。」

そんな

「皆席に着け！！」

千冬姉の号令で席に戻るクラスの皆。  
席に当たらないように、倒していたため全員が席に着いた。

「自己紹介をしてくれ

今はそんな事より

「神龍侍閃夜です」

「・・・神火鳥零夜です」

「皆さん」

「・・・皆」

「「仲良くしてね」」

望んでいた再開は突然の形で果たされた。

次回

そんなこんなでヒュ学園に入学。  
どうなる?どうなる?

ハハハ期待。



第六話 クラスメイトは全員女じゃ無かった。（後書き）

急ぎたかな？

ああ、気にしないで。当たり前の事だから。

-----神龍侍視点-----

「仲良くしてね」

いや、こんな事が起きたのに自己紹介つておかしいだろ。

だが、いじめあえてもつと喋る。

「よし。じゃあ席に

」

織斑先生が言おうとするが。

「ちやんざらんぢつもーわつを以前だけは言つましたが、神龍侍閃夜です

ー。」

「こんな事があつて驚いてると思つけど、大丈夫ー。」

「僕たち『HS風紀委員会』が連行するからねー。」

「ああ、黒服の皆さんカモーンー。」

そつぱつと黒服を着た女性が入ってきた。

「『委嘱書』はこいつ等はござりますか？」

あ～あ。

書つちやだめじやん、後で書つてたの。

「じやあ、適當に罰を付とこて。ひなみに『適切』せ『やまつら』ことなり。

と書つ意味だ。

「はー」

「じやあ、ぱいぱーい」

女性たちは帰つていいく。

「じやあ、席に

またまた、織斑先生が言おうとするが。

「監さん氣が付いたやこました? 気が付いてないわけないですよね?

少したため。

「改めて自己紹介！“宇宙大国アヴァロン国王”兼“アヴァロンホームの社長”兼“アヴァロン国家代表”兼“織斑千冬＆篠ノ之束の恋人”的『みんなの優しいお兄さん』！！」

「神龍侍閃夜です！！」

そういつた後に半歩下がると、零夜が半歩出てきた。

「…………それじゃあ自己紹介

「…………“宇宙大国アヴァロン宰相”兼“アヴァロンホーム副社長”兼“アヴァロン国家副代表”的『声が小さいのはほつといてください』」

「神火鳥零夜です」

皆ビックリしている。

すると、織斑先生から。

「ちょっと待て！何だ今のはーー！」

「え？ 何処がですか？」

「恋人つて所だ！」・い・び・と・！

「え？ 何ですか？」

ほんとに分からないな。

「何ですか？何時かばれますよ？なら先に言えぱいいじやないですか。それとも俺以外に好きな人できたのかな？できたなら誰だい？俺の独占欲が火を噴きますよ？早く言ってください。そうじやないなら俺の事が好きだつていいて下さいよ。それとも皆に聞かれるのが嫌なんですか？大丈夫です、俺は嬉しいですから。だつて皆に織斑先生が僕の事を大好きだつて宣言してくれるようなもんです、凄く嬉しいですね。それとも俺ではダメですか？やつぱり好きな人を一人に絞らない男は嫌ですか？でも全員幸せにしてみますから。やつぱり駄目ですかね？答えてくださいよ！織斑先生！！」

言い切つた、言いたい事を言い切つた。

しかし長いな聞き取れてるかな？

לְפָנֶיךָ יְהוָה אֱלֹהֵינוּ וְאֶת־בְּנֵינוּ

あれ？赤くなつてゐる。

すぐ戻して返すかと思つてゐる。

て、あれ？

零夜は？

「…………混乱をせぬな、馬鹿野郎…………！」

ちよつ

次回

とんでもないスタートで始まりました。

それでどうなるのか？

ENJOY期待！



友達百人できるかな？

意外とできた。

——織斑一夏視点——

「ズドオオオオオオオオオオオオオオ」

え？

「！」の馬鹿野郎が！混亂させてどうするんだよ……悪乗りした俺も馬鹿だが、お前のは調子乗りすぎだ……！」

何時もはおとなしそうな零夜が、まるで鬼のよつて声を荒げて叫ぶ。

恐ろしい。

「謝罪しろ……今すぐに……」

しかし閃夜は先ほどの一撃で完全に気絶してゐ。

それが分かつたのか零夜は閃夜を床に置いて、千冬ね

じゃ

なかつた織斑先生のほうを向いた。

「申し訳ござりませんでした。」の馬鹿には後で厳しく、厳しく、厳しく言つづけておきますので

厳しくの所を二回書つたが、二回も。

「あ、ああ」

見うよ織斑先生や他のクラスメイトもたじろいでゐるぜ。

「…………や、行くぞ馬鹿」

何時もの声にはなつたが閃夜の扱いが酷い。

なんていつたつて足を持つて引きずつてゐるからな。

「…………勝手に立ち上がり

そつ言つと零夜は閃夜を席の近くに持つて行くと、床に置いたまま席に着いた。

ちなみに席の順番は、俺が真ん中でその隣が零、その隣が閃夜、その隣が零夜になっている。

その後とつあえず前を見ると

「え・・・・・え・・・・・ふえ」

今にも泣き出しそうな山田先生が居た。

「えと・・・・・あの・・・・・大丈夫ですか？」

閃夜を心配しているようだ。

「えと・・・・・あのー・・・・・・」

ますます泣きそうになる。

あ、 そつか。

一応閃夜達は国王だもんな。

緊張してんのか。

「・・・・・後、皆さんに言いたい事があります。僕達を“王”で生き返りますから

「・・・・・・・後、皆さんに言いたい事があります。僕達を“王”

ではなく“同級生”として見て下せい。少しずつで良いです、仲良く気軽に話しあえる仲になりましょい」

そう零夜が言つと一人の女子生徒が言つた。

「で、でも。不敬罪とかで罰せられたり、言つ事を聞かなきゃいけなかつたりするんですね? だつたら恐れ多くて」

そう言つた。

その瞬間、零夜は『ああ、やつぱりか』と言つ顔をしていた。

ちなみにさつきの女子の言葉だが、俺はそんな事ないと思つ。

それなら俺は死刑にされると思つから。

その女子の言葉に零夜が反論をしようと口を開いた瞬間

「『王とは独裁者ではない。民からの信頼に答え、民を守り、その見返りに働いてもらつ。王は何でも好きなようにできる者ではない。もし好きなように好きなだけ好きな事をする王が居るなりば、そのような王の事を人は“愚王”と呼ぶ。俺は此処に“友達”を作りに来たんだ、恐怖政治をしに来たわけじゃない』

ゆつくりと閃夜が起きながら語る。

さながら演説だな。

「じゃあみんなにお願いがある。俺らと一緒に

そこで閃夜は間をおいて

「友達になってくれないか?」

そう笑顔で言つてきた。

周りを見ると、みんな顔を見合つている。

やつぱりみんな戸惑つているやつだった。

しかしその後みんな前を向いた

いや

閃夜のほつを向いた。

そして

と、  
言つた。

次回

彼らにあの人気が接近！！

乞うご期待！！



友達百人できるかな？

意外とできた。（後書き）

感想待つてます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9230w/>

IS～インフィニット・ストラatos～“最強”の機関‘IS風紀委員会’  
2011年11月17日17時40分発行